

廃プラ パナ・ケミカル 資源プラで安定輸出を模索 豊通と合併で年四万トンの工場設立 ヴェオリア



パナ・ケミカル 代表取締役 犬飼 健太郎氏

中国が環境問題から海外からの廃プラの全面輸入禁止に踏み切り、海洋プラスチック問題と相まって使用抑制する動きに発展するなど、プラスチック素材そのものに逆風が吹き荒れている。環境省は今年六月に大阪で開催されるG20に合わせて「資源循環プラスチック戦略」を示す。今年三月に開かれた日報ビジネス主催のNEW環境展の会期中に、「中国・東南アジア

輸入規制の急展開と廃プラリサイクル処理」と題したセミナーが催された。最新の廃プラ事情について、リサイクルを手掛ける事業者の報告からレポートしたい。

資源プラの動きを加速 発泡スチロールのリサイクル事業で四十三年の実績がある株式会社パナ・ケミカルが、犬飼健太郎代表取締役は、「環境省が廃プラ輸出をバール条約の枠組みに入れることを提案している。『汚れた』という形容詞が付くが、廃プラというだけで輸出できなくなる恐れもある」と指摘した。

中国が環境問題から海外からの廃プラの全面輸入禁止に踏み切り、海洋プラスチック問題と相まって使用抑制する動きに発展するなど、プラスチック素材そのものに逆風が吹き荒れている。環境省は今年六月に大阪で開催されるG20に合わせた「資源循環プラスチック戦略」を示す。今年三月に開かれた日報ビジネス主催のNEW環境展の会期中に、「中国・東南アジア

輸入規制の急展開と廃プラリサイクル処理」と題したセミナーが催された。最新の廃プラ事情について、リサイクルを手掛ける事業者の報告からレポートしたい。

昨年、日本から中国向けの廃プラ輸出量は五万トンと前年から七十万トン減った。一方、欧米諸国を含めて、代替国に殺到したこと東南アジアは混乱。規制強化に動いた。日本の廃プラ輸出量もピーク時の四割減となり、廃プラリサイクルは転機を迎えている。

廃プラの持続可能なリサイクルシステムを築くために、犬飼社長は「まずは品質を上げていくことが大事。品質を高めて、単一素材のものをつくって、海外に輸出する。お付き合いしている輸出企業も突然取引を停止する可能性もあり、海外

に流れている雑プラも長く続かば分らない。原料によつては国内でリサイクルすることも大切。リサイクルの処理設備を使って品質を高められることもある」と解決策を語った。

犬飼社長は「廃プラ」という呼び名を問題視し、「廃プラとして処理するのではなく、資源として新しいものを製造するという概念が大事。これを世に広めたい」と語り、昨年「資源プラ協会」という団体を立ち上げた。また日本発である発泡プラリサイクルも「EPSリサイクリング」という仕組みを作り、国際的な認知

度を高めている。欧州大手が廃プラ事業世界的にみれば、日本の廃プラのリサイクルシステムは整備され、分別排出もある程度定着している。こうした高品質の廃プラに着目し、海外から日本へ参入する企業もある。欧州の廃棄物大手ヴェオリアもその一社だ。NEW環境展では、日本法人であるヴェオリア・ジェネッツ(株)のプラニック副部長が講演した。同社はフランスに本拠を置くグローバル企業。一八五三年に創業し、百六十年以上の歴史がある。二〇一七年に二百五十一億ユーロ(約三兆円)の売上があり、従業員は十七万人弱。水道廃棄物、エネルギーの三分

の分野で事業を展開し、廃棄物部門は売上の三六%を占める。世界各地でプラスチックリサイクルも手掛けている。日本への進出は二〇二〇年からだが、当初は下水道事業が中心だった。

廃プラリサイクルに本腰を入れたのは二〇一六年以降で、同年九月に株式会社フアクトリー(埼玉県本庄市)、(株)グリーンループ(静岡県菊川市)、(株)日泉(茨城県常総市)の三社の全株式を(株)レノバ(旧リサイクル・ワン)から取得した。前者の二社は、容器包装プラスチックの認定工場として、それぞれ年間三万六千六百トンの処理能力がある。また後者は、主にPPから高品質な

ベレットを生産し、年間一万吨の処理能力があり、後にヴェオリア・ジェネッツ茨城コンパウンド工場と改称した。二〇一八年末には、豊田通商、小島産業と三社で合併会社プラニックを設立。二〇二〇年の稼働を目指し、静岡県御前崎市に国内最大級の年間四万トンの処理能力をもつプラスチック再資源化工場を立ち上げる。

株式会社プラニックの企業概要

会社名	株式会社プラニック
所在地	静岡県御前崎市
設立	2018年12月
従業員数	約40名
事業内容	ミックスプラスチックを原料とした樹脂製造
出資会社	豊田通商(株)、ヴェオリア・ジャパン(株)、小島産業(株)